

業務に活かせる経験・知識について

1. 行動の再現性

欧米の採用担当者は、同じような環境下であれば行動の再現性が高いことを知っており、書類審査あるいは採用面接時に前職のエピソードを聴取し、それによって入社後の行動を推測し、採否の判断に活用していました。日本でも、社会人経験のない学生の採用において、アルバイト、ゼミ、部活などの集団行動の中での行動をエントリーシートに記入してもらったり、聞き取ることで採用に反映しており、すでにいろいろな会社で採用されています。具体的には、業務に活かせる経験・知識を調べるために、次ページ以降のような概念図に基づいて、テンプレートにエピソードをまとめていただく作業をお願いしています。。

2. エピソードの活用

この作業により、どんな状況・前提で、どんな任務・課題が存在し、どのような言動を行い、結果としてどのようなことが起こったり、反応があったのかがつまびらかになります。

今までで、主に課題解決という側面で、人生が変わるような経験をしたり、周りの人に影響のある言動があったりしたことをできるだけ多く抽出し、いったんテンプレートに沿って細かく分析してみましょう。できれば3件ほどを緊急性と重要性の観点から優先順位順にピックアップし、数行にまとめて提出書類に織り込みましょう。次の業務あるいは転職後の職場で活かすことができるという意味で、評価者にアピールすることができます。

3. 出典について

マネジメントツールである、Work-Out や6シグマで有名な、GE で開発された、採用・昇格・昇進などの評価の時に使用する”Target Selection“がベースです。ジャック・ウエルチもその後の CEO もこの手法で候補者の中から選抜されたといわれています。

本来は、フランスの哲学者ケルト・レヴィンの $B=f(P \times E)$ という関数が元になっています。B は behavior(行動)、P は personality(個性)、E は environment(環境)の頭文字で、f は function(関数)すなわち相互作用という意味です。この式が意味するものは、人間の行動 B は、同じ人間 P でも環境 E が異なれば違いが現れ、同じ環境 E (集団規範、人間関係、文化、風土も含む)でも、人間 P (人間性、人格、個性、価値観等)が異なれば違いが現れるということです。自分が変われば、考えが変わる。考えが変われば、行動が変わり、行動が変われば、態度が変わる。態度が変われば、相手が変わり、相手が変われば世界が変わる。という思想です。

たとえば、自分としては「勉強したい」と思っている、回りのみんなが遊び好きで遊ぼうよと誘われたとき、「勉強するから」といって断ったら「なんだ、ガリ勉」と嫌われるかもしれない、それはいやだなと思ったら、本当は勉強したいのにみんなと遊びに行きますね。(P)は、勉強したいのです。でも、(E)は、勉強できる環境ではないのです。そこで、遊びに行くという行動(B)になるのです。

この例は、心理的な環境のお話ですが、物理的な環境でも同じことが言えます。普段おとなしい人でも、周りがうるさいときには、自然に大声になるというように・・・。

レ빈は、主として心理的環境の影響の大きさを提示したのですが、日本では経験的に知っていました。「朱に交われば赤くなる」、「赤信号、みんなで渡れば怖くない」ということわざは、周囲の影響によって個人が変わることをうまく表現しています。また、中国の「孟母三遷の教え」では、孟子の母は、子供のために環境がよいからと3度引っ越したそうですが、これも、個人的要素だけでなく、環境的要素も大きく影響するという例と考えることができます。

STAR 式自己分析ストーリーシート

(具体名: _____)

ジャンル: ☐ 学生時代(学業、ゼミ、部活) ☐ アルバイト ☐ 就職後 ☐ 家庭生活 ☐ その他

分野	項目	内容(記入のポイント)
S: Situation 状況・前提	Who? 誰が/誰と?	自分が主役であるが、その時の関係者についてはもれなく松相互の立場を明確に
	When? いつ?	全体の人生の流れの中でどの辺りに位置付けするのか。できるだけ年月日まで詳細に。
	Where? どこで? に	起こった場所名を具体的に。わかれば住所もあるといい。
	Why? 何故? 理由? 問題点?	あるべき姿から外れている部分、何か不都合な部分があったら、その内容。
T: Task 任務・課題	What? 何を?	主語となるべき事柄を特定する。例えば、解決すべきこと、達成すべきことなど
	Goal? 目標は?	どのくらいの数量で、どのくらいの期間で、何人くらいで等、できるだけ具体的に
	Role? 役割は?	自分が果たした役割や位置づけを具体的に記入。役職ではなく、具体的なポジション名(例: リーダー、サブリーダー、営業代表等)
A: Action 行動・発言	How? どうした?	課題解決に役立った、自分自身の行動や発言などを具体的に
	Means? 手段?	ITスキルの活用、学校時代のネットワーク、社長への直談判、イベント実施など
	How Much? どのくらい?	Goal を達成するのにかかった費用、時間、人数、回数など数に関係するもの
R: Result 結果・反応	Success? うまく行ったこと?	実際に、達成できたこと。ゴール設定、手法、チームの協力体制など
	Failure? 失敗・苦勞したこと?	やり残したこと、もう少しこうすればよかったと思っていることなど
	Learning? 学んだこと?	ここが肝になる部分である。次回同じ場面があれば、上手くできるという感触を残す
特記事項	STAR の項目に入り切れなかった点で、その時の特殊状況や後で考えるとこうすればよかったというような反省点等を記入。純粹に本件を通じてよかったこと、悪かったことなどを述べてもよい。	

日付: 20 / /

氏名:

STAR 式行動分析シート
(具体名:)

ジャンル: ☐学生時代(学業、ゼミ、部活)☐アルバイト☐就職後☐家庭生活☐その他

分野	項目	内容
S:Situation 状況・前提	Who? 誰が/誰と?	
	When? いつ?	
	Where? どこで?	
	Why? 何故?理由?問題点?	
T:Task 任務・課題	What?何を?	
	Goal?目標は?	
	Role?役割は?	
A:Action 行動・発言	How?どうした?	
	Means?手段?	
	How Much? どのくらい?	
R:Result 結果・反応	Success? うまく行ったこと?	
	Failure? 失敗・苦労したこと?	
	Learning? 学んだこと?	
特記事項		

日付: 20 / /	氏名:
------------------	-----

STAR 式行動分析シートの使い方について

マネジメントツールである、Work-Out や6シグマで有名な、GE で開発された、採用・昇格・昇進などの評価の時に使用する”Target Selection“がベースです。ジャック・ウエルチもその後の CEO もこの手法で候補者の中から選抜されたといわれています。

本来は、フランスの哲学者ケルト・レヴィンの $B=f(P \times E)$ という関数が元になっています。B は behavior(行動)、P は personality(個性)、E は environment(環境)の頭文字で、f は function(関数)すなわち相互作用という意味です。この式が意味するものは、人間の行動 B は、同じ人間 P でも環境 E が異なれば違いが現れ、同じ環境 E(集団規範、人間関係、文化、風土も含む)でも、人間 P(人間性、人格、個性、価値観等)が異なれば違いが現れるということです。自分が変われば、考えが変わる。考えが変われば、行動が変わり、行動が変われば、態度が変わる。態度が変われば、相手が変わり、相手が変われば世界が変わる。という思想です。

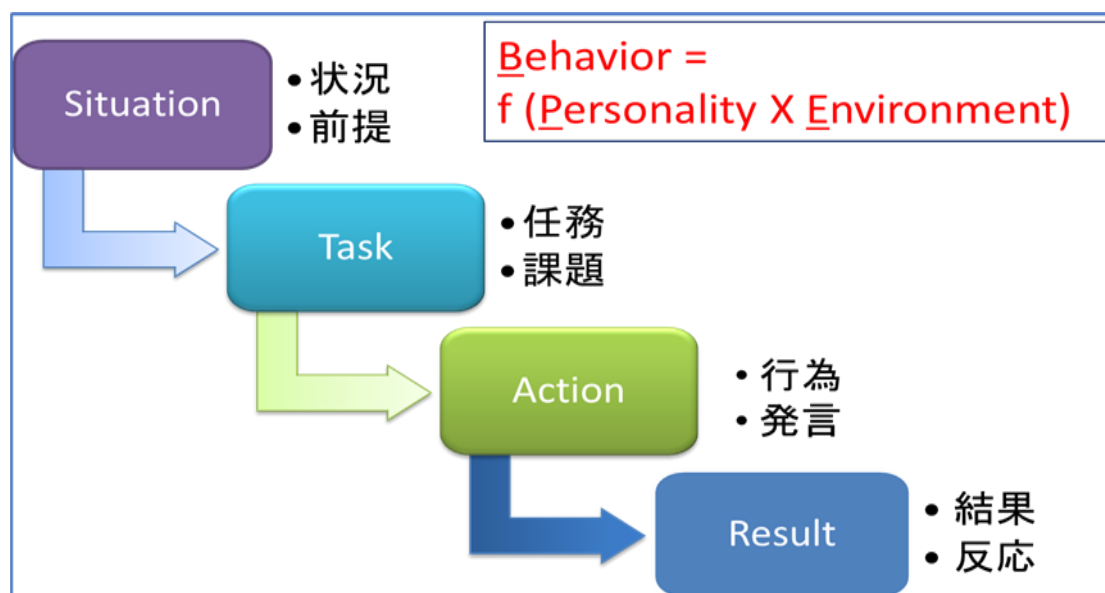
たとえば、自分としては「勉強したい」と思っている、回りのみんなが遊び好きで遊ぼうよと誘われたとき、「勉強するから」といって断ったら「なんだ、ガリ勉」と嫌われるかもしれない、それはいやだなあと思ったら、本当は勉強したいのにみんなと遊びに行きますね。(P)は、勉強したいのです。でも、(E)は、勉強できる環境ではないのです。そこで、遊びに行くという行動(B)になるのです。

この例は、心理的な環境のお話ですが、物理的な環境でも同じことが言えます。普段おとなしい人でも、周りがうるさいときには、自然に大声になるというように・・・。

レビンも、主として心理的環境の影響の大きさを提示したのですが、日本では経験的に知っていました。「朱に交われば赤くなる」、「赤信号、みんなで渡れば怖くない」ということわざは、周囲の影響によって個人が変わることをうまく表現しています。また、中国の「孟母三遷の教え」では、孟子の母は、子供のために環境がよくないからと3度引っ越したそうですが、これも、個人的要素だけでなく、環境的要素も大きく影響するという例と考えることができます。

同じような環境下であれば行動の再現性が高いことから、書類審査あるいは採用面接時に業務に活かせる経験として前職のエピソードを聴取し、それによって入社後の行動を推測し、欧米の採用担当者は採否の判断に活用していました。日本でも、社会人経験のない学生の採用において、アルバイト、ゼミ、部活などの集団行動の中での行動を聞き取ることで採用に反映しており、すでにいろいろな会社で採用されています。

具体的には以下のような概念図に基づいて、テンプレートにエピソードをまとめていただく作業をお願いしている次第です。



STAR 式自己分析ストーリーシート

(具体名: _____)

ジャンル: ☐ 学生時代(学業、ゼミ、部活) ☐ アルバイト ☐ 就職後 ☐ 家庭生活 ☐ その他

分野	項目	内容(記入のポイント)
S: Situation 状況・前提	Who? 誰が/誰と?	自分が主役であるが、その時の関係者についてはもれなく松相互の立場を明確に
	When? いつ?	全体の人生の流れの中でどの辺りに位置付けするのか。できるだけ年月日まで詳細に。
	Where? どこで? に	起こった場所名を具体的に。わかれば住所もあるといい。
	Why? 何故? 理由? 問題点?	あるべき姿から外れている部分、何か不都合な部分があったら、その内容。
T: Task 任務・課題	What? 何を?	主語となるべき事柄を特定する。例えば、解決すべきこと、達成すべきことなど
	Goal? 目標は?	どのくらいの数量で、どのくらいの期間で、何人くらいで等、できるだけ具体的に
	Role? 役割は?	自分が果たした役割や位置づけを具体的に記入。役職ではなく、具体的なポジション名(例: リーダー、サブリーダー、営業代表等)
A: Action 行動・発言	How? どうした?	課題解決に役立った、自分自身の行動や発言などを具体的に
	Means? 手段?	ITスキルの活用、学校時代のネットワーク、社長への直談判、イベント実施など
	How Much? どのくらい?	Goal を達成するのにかかった費用、時間、人数、回数など数に関係するもの
R: Result 結果・反応	Success? うまく行ったこと?	実際に、達成できたこと。ゴール設定、手法、チームの協力体制など
	Failure? 失敗・苦勞したこと?	やり残したこと、もう少しこうすればよかったと思っていることなど
	Learning? 学んだこと?	ここが肝になる部分である。次回同じ場面があれば、上手くできるという感触を残す
特記事項	STAR の項目に入り切れなかった点で、その時の特殊状況や後で考えるとこうすればよかったというような反省点等を記入。純粹に本件を通じてよかったこと、悪かったことなどを述べてもよい。	

日付: 20 / /

氏名:

<提出用>

STAR 式自己分析ストーリーシート

(具体名:)

ジャンル: ☐ 学生時代(学業、ゼミ、部活) ☐ アルバイト ☐ 就職後 ☐ 家庭生活 ☐ その他

分野	項目	内容
S:Situation 状況・前提	Who? 誰が/誰と?	
	When? いつ?	
	Where? どこで? に	
	Why? 何故?理由?問題点?	
T:Task 任務・課題	What?何を?	
	Goal?目標は?	
	Role?役割は?	
A:Action 行動・発言	How? どうした?	
	Means?手段?	
	How Much? どのくらい?	
R: Result 結果・反応	Success? うまく行ったこと?	
	Failure? 失敗・苦労したこと?	
	Learning? 学んだこと?	
特記事項		

日付: 20 / /

氏名:

<提出用>

STAR 式自己分析ストーリーシート

(具体名:)

ジャンル: ☐ 学生時代(学業、ゼミ、部活) ☐ アルバイト ☐ 就職後 ☐ 家庭生活 ☐ その他

分野	項目	内容
S:Situation 状況・前提	Who? 誰が/誰と?	
	When? いつ?	
	Where? どこで? に	
	Why? 何故?理由?問題点?	
T:Task 任務・課題	What?何を?	
	Goal?目標は?	
	Role?役割は?	
A:Action 行動・発言	How? どうした?	
	Means?手段?	
	How Much? どのくらい?	
R: Result 結果・反応	Success? うまく行ったこと?	
	Failure? 失敗・苦労したこと?	
	Learning? 学んだこと?	
特記事項		

日付: 20 / /

氏名:

<提出用>

STAR 式自己分析ストーリーシート

(具体名:)

ジャンル: ☐ 学生時代(学業、ゼミ、部活) ☐ アルバイト ☐ 就職後 ☐ 家庭生活 ☐ その他

分野	項目	内容
S:Situation 状況・前提	Who? 誰が/誰と?	
	When? いつ?	
	Where? どこで? に	
	Why? 何故?理由?問題点?	
T:Task 任務・課題	What?何を?	
	Goal?目標は?	
	Role?役割は?	
A:Action 行動・発言	How? どうした?	
	Means?手段?	
	How Much? どのくらい?	
R:Result 結果・反応	Success? うまく行ったこと?	
	Failure? 失敗・苦労したこと?	
	Learning? 学んだこと?	
特記事項		

日付: 20 / /

氏名: